

第41回 目黒区世論調査

目黒区への定住性

政治への関心度

区の施策

広報・インターネット

ワーク・ライフ・バランス

暮らし向き

消費生活

安全対策

窓口サービス

集会施設の利用

みどり豊かなまちづくり

地球温暖化対策

健康づくり

目黒区

平成21年10月

は じ め に

目黒区では、「住みたいまち、住み続けたいまち目黒」の実現を目指し、地方分権時代にふさわしい、区民の皆様にもっと身近な基礎自治体として行政を推進しております。

目黒区らしい自治体行政と地域社会の実現のためには、何よりも区民の皆様一人ひとりのご意見・ご要望を的確に把握し、施策に反映していくことが大切であると考えております。

「目黒区世論調査」は、昭和44年から毎年実施し、区民の皆様の生活実態やご意向を調査しておりますが、今年で41回目になります。今回の調査では、定住性や施策への要望など毎年実施している項目のほか、「ワーク・ライフ・バランス」「暮らし向き」「消費生活」「安全対策」「窓口サービス」「集会施設の利用」「みどり豊かなまちづくり」「地球温暖化対策」「健康づくり」などの項目についても調査いたしました。

この調査によって得られた結果は、今後の区政運営の貴重な資料として有効に活用させていただきたいと考えております。また、関係各方面におかれましても、お役立ていただければ幸いです。

最後になりましたが、この調査にご協力いただきました区民の皆様に心から厚く御礼申し上げます。

平成21年10月

目 黒 区 長 青 木 英 二

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 回収結果	5
5. この報告書の見方	6
6. 回答者属性	7

第2章 調査結果のまとめ

1. 目黒区への定住性

1-1 居住年数	13
1-2 居住理由	16
1-3 定住・転出意向	20
1-4 将来の居住地予想	24

2. 政治への関心度

2-1 区政・都政・国政への関心度	28
2-2 区長の名前の認知度	33

3. 区の施策

3-1 良いところ・悪いところ	35
3-2 優先して行ってほしいところ	40

4. 広報・インターネット

4-1 希望する情報の入手方法	44
4-2 めぐる区報の入手先	46
4-3 めぐる区報の閲覧状況	49
4-4 読みたいと思う広報紙	52
4-5 インターネットの利用状況	55
4-6 インターネットの利用場所	58
4-7 インターネットの利用環境（回線の種類）	61
4-8 目黒区ホームページの閲覧状況	65
4-9 目黒区ホームページの満足度	68
4-10 目黒区ホームページで満足できない理由	70
4-11 目黒区ホームページで改善した方がよいところ	72

5. ワーク・ライフ・バランス

5-1 ワーク・ライフ・バランスの認知度	73
5-2 生活内で多くの時間をしめている内容	76
5-3 生活のバランス状況	81

6. 暮らし向き	
6-1 暮らし向きの変化	85
7. 消費生活	
7-1 消費生活における被害	89
7-2 被害を受けた際に相談した機関	94
8. 安全対策	
8-1 AEDの認知度	98
8-2 AED配置場所の認知度	101
8-3 住宅用火災警報器設置義務化の認知度	105
8-4 住宅用火災警報器設置の有無	109
9. 窓口サービス	
9-1 区の施設利用の有無	113
9-2 職員の対応・サービスの印象	114
10. 集会施設の利用	
10-1 区の集会施設利用の有無	117
10-2 利用しない理由	120
10-3 団体利用優待に対する意見	121
11. みどり豊かなまちづくり	
11-1 みどり豊かなまちづくりのために協力できること	124
11-2 協力したいと思う「みどりの基金」の目的	129
12. 地球温暖化対策	
12-1 地球温暖化問題への意識	133
12-2 地球温暖化防止のために優先すること	135
13. 健康づくり	
13-1 運動やスポーツ実施の有無	136
13-2 運動やスポーツ実施の目的	139
13-3 行っている、今後行いたい運動やスポーツ	141
第3章 付表	
調査票	147
集計表	159

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区民の生活実態の把握、および区政の各分野について区民の意識、意向、意見や要望を把握し、これを今後の区政に反映させることを目的としたものである。

2. 調査の内容

本調査は、以下の調査項目について行った。

1. 目黒区への定住性
2. 政治への関心度
3. 区の施策
4. 広報・インターネット
5. ワーク・ライフ・バランス
6. 暮らし向き
7. 消費生活
8. 安全対策
9. 窓口サービス
10. 集会施設の利用
11. みどり豊かなまちづくり
12. 地球温暖化対策
13. 健康づくり

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：目黒区全域
- (2) 調査対象：目黒区在住の満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数：3,000人
- (4) 抽出法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
 - ・抽出台帳：目黒区住民基本台帳
 - ・抽出方法：層化二段無作為抽出
 - ・層化：目黒区基本計画に定められた5地区
 - ・地点数：各地区の満20歳以上人口の比率に基づき、200地点を比例配分した。
 - ・地点抽出：各地点毎に、地点数に応じた対象者（満20歳以上）人口インターバルを定め、各地点のスタート番号を無作為に系統抽出した。
 - ・対象者：抽出した各地点のスタート地点から、1地点につき10標本を無作為系統抽出した。
- (5) 調査方法：郵送配布・郵送回収法
- (6) 調査期間：平成21年6月11日～6月30日
- (7) 調査機関：株式会社 エスピー研

図 3 - 1 地域区分

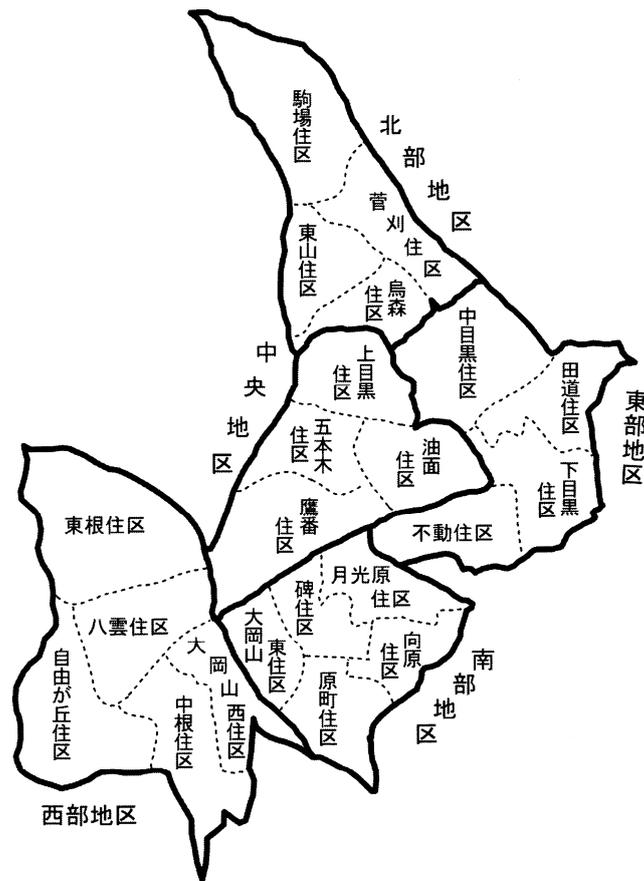


表 3 - 1 地域・住区・町丁目対応表

地区	住 区	区 域
北 部	駒 場 住 区	駒場 1～4丁目、大橋 2丁目の一部
	菅 刈 住 区	青葉台 1～4丁目、大橋 1丁目、上目黒 1丁目の一部
	東 山 住 区	東山 1丁目の一部、同 2・3丁目、上目黒 5丁目の一部、大橋 2丁目の一部
	烏 森 住 区	東山 1丁目の一部、上目黒 2・3・5丁目の各一部
東 部	中 目 黒 住 区	上目黒 1～3丁目の各一部、中目黒 1～3丁目、同 4・5丁目の各一部
	田 道 住 区	三田 1・2丁目、目黒 1丁目、同 2・3丁目の各一部、中目黒 4丁目の一部
	下 目 黒 住 区	目黒 2・3丁目の各一部、下目黒 1～3丁目
	不 動 住 区	下目黒 4～6丁目、目黒本町 1丁目
中 央	上 目 黒 住 区	上目黒 4丁目、中目黒 5丁目の一部、五本木 1丁目、祐天寺 1・2丁目
	油 面 住 区	中目黒 5丁目の一部、目黒 4丁目、中町 1丁目、同 2丁目の一部
	五 本 木 住 区	五本木 2・3丁目、中央町 2丁目、中町 2丁目の一部
	鷹 番 住 区	中央町 1丁目、碑文谷 5・6丁目、鷹番 1～3丁目
南 部	月 光 原 住 区	目黒本町 2・4丁目、同 3・5・6丁目の各一部
	向 原 住 区	目黒本町 3・5・6丁目の各一部、原町 1丁目
	碑 住 区	碑文谷 1・2丁目、目黒本町 6丁目の一部
	原 町 住 区	原町 2丁目、洗足 1・2丁目、南 1丁目
西 部	大 岡 山 西 住 区	南 3丁目、平町 1丁目、同 2丁目の一部、大岡山 1丁目の一部
	中 根 住 区	大岡山 1丁目の一部、同 2丁目、緑が丘 1・3丁目、中根 2丁目、平町 2丁目の一部
	自 由 が 丘 住 区	緑が丘 2丁目、自由が丘 2～3丁目、八雲 3丁目、中根 1丁目の一部
	八 雲 住 区	柿の木坂 1丁目、八雲 1・2丁目、中根 1丁目の一部
	東 根 住 区	柿の木坂 2・3丁目、八雲 4・5丁目、東が丘 1・2丁目

4. 回収結果

(1) 標 本 数 : 3,000 標本

(2) 回 収 総 数 : 1,824 票 回 収 率 : 60.8%

(3) 有 効 回 収 数 : 1,818 票 有 効 回 収 率 : 60.6%

(4) 地域別回収結果

地区名称	満20歳以上人口		世論調査対象者数		有効回収数		
	実数 (人)	地域別 構成比 (%)	対象者数 (人)	地域別 構成比 (%)	回収数	地域別 構成比 (%)	回収率 (%)
北 部 地 区	35,227	16.1	476	15.9	277	15.2	58.2
東 部 地 区	42,573	19.4	583	19.4	360	19.8	61.7
中 央 地 区	46,776	21.3	644	21.5	380	20.9	59.0
南 部 地 区	39,986	18.2	547	18.2	327	18.0	59.8
西 部 地 区	54,886	25.0	750	25.0	474	26.1	63.2
合 計	219,448	100.0	3,000	100.0	1,818	100.0	60.6

注) 平成 21 年 6 月 1 日現在の人口と抽出対象数に基づく。

注) 地区別の満 20 歳以上人口は、住民基本台帳より予定転出者をのぞいた人口となっている。

注) 構成比は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、100.0%にならないことがある。

5. この報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（number of caseの略）は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。したがって、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100.0%を超える。
- (2) 調査結果の比率は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての比率を合計しても100.0%にならないことがある。また、複数の選択肢の比率の合計は、件数を合計して算出しているため、比率の計と一致しないことがある。
- (3) 図表中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化してある。
- (4) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (5) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、件数が30未満の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても、本文中ではふれていないことがある。
- (6) 標本調査を行ったため、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法を用いた場合の標本誤差（信頼度を95%とした場合）は以下の式により求められる。

$$(\text{標本誤差}) b = 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad \left[\begin{array}{l} N = \text{母集団 (目黒区全体)} \\ n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \\ p = \text{回答比率} \end{array} \right]$$

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$ とみなすことができるので、調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

表5-1 標本誤差早見表（信頼度：95%）

回答の比率(P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,818	±2.0%	±2.7%	±3.0%	±3.2%	±3.3%
1,500	±2.2%	±2.9%	±3.3%	±3.6%	±3.7%
1,400	±2.3%	±3.0%	±3.5%	±3.7%	±3.8%
1,300	±2.4%	±3.1%	±3.6%	±3.8%	±3.9%
1,200	±2.4%	±3.3%	±3.7%	±4.0%	±4.1%
1,100	±2.6%	±3.4%	±3.9%	±4.2%	±4.3%
1,000	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
800	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%
500	±3.8%	±5.1%	±5.8%	±6.2%	±6.3%
200	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
100	±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

注：この表の見方

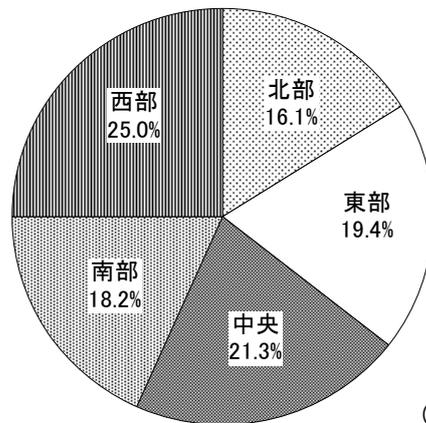
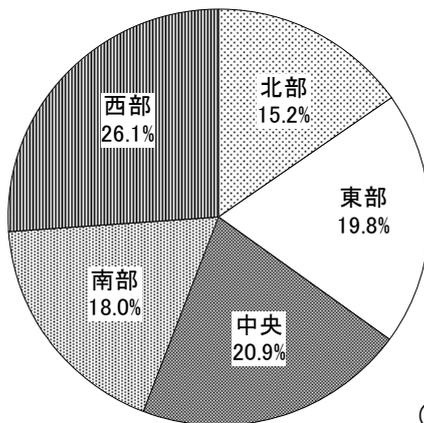
例えば、回答者数が1,818である質問における、ある1つの選択肢の回答の比率が30%であった場合、その回答の比率の誤差の範囲は±3.0%（27.0%～33.0%）の範囲にあることが95%の信頼度でいえることになる。

6. 回答者属性

- ・回答者の性別は「男性」が41.3%、「女性」が58.5%となっている。
- ・年代は「30代」が20.2%で最も多く、次いで「40代」18.2%、「60代」16.8%の順となっている。
- ・職業は「事務・専門技術職」が18.8%で最も多く、次いで「主に家事に従事」17.2%、「会社・団体役員」16.0%の順となっている。
- ・世帯構成は「二世世代家族」が42.8%で最も多く、次いで「夫婦のみ」23.9%、「一人暮らし」22.1%となっている。
- ・配偶者の有無は「配偶者がいる」が57.9%、「配偶者がいない」が37.7%となっている。
- ・配偶者のいる人のうち、「共働きをしている」人は42.1%、「共働きではない」人は51.1%となっている。
- ・家族構成は「入学前の乳幼児がいる」9.6%、「小・中学生がいる」12.0%、「65歳以上の方がいる」35.7%となっている。
- ・居住形態は「一戸建持家」が40.8%で最も多く、次いで「鉄筋アパート・賃貸マンション」21.9%、「分譲マンション」18.3%の順となっている。

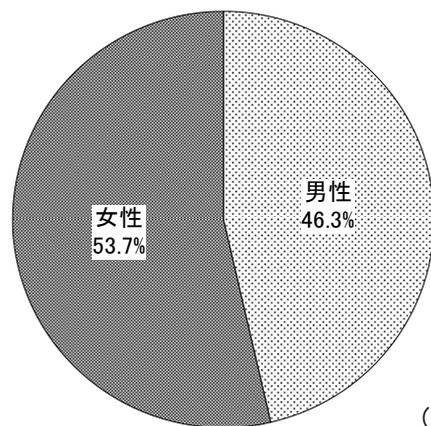
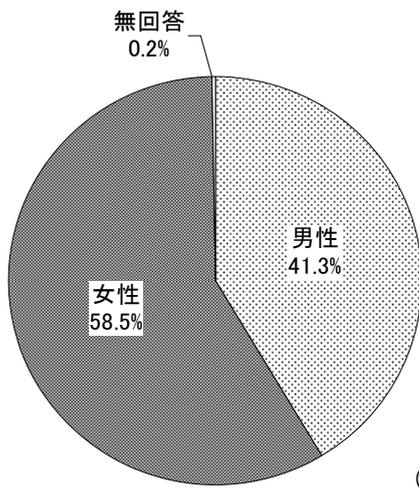
(1) 居住地区

(参考) 住民基本台帳における居住地区の割合
平成21年6月1日現在
※転出予定者をのぞく

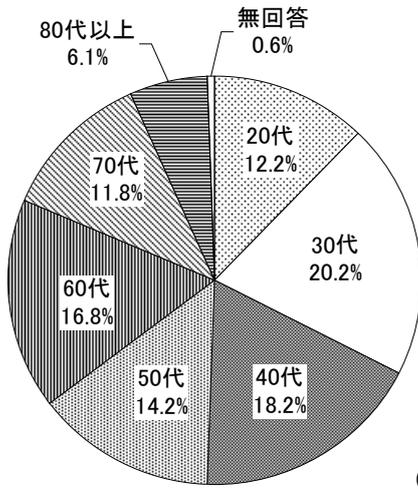


(2) 性別

(参考) 住民基本台帳における性別の割合
平成21年6月1日現在

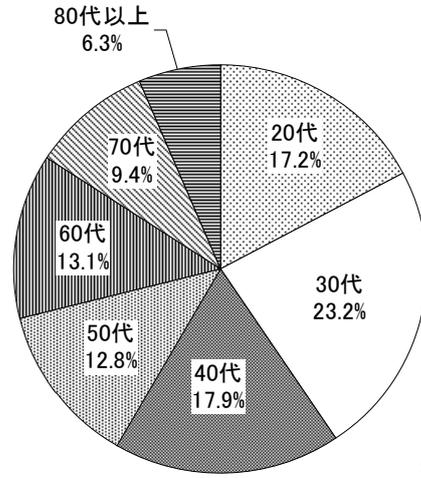


(3) 年代

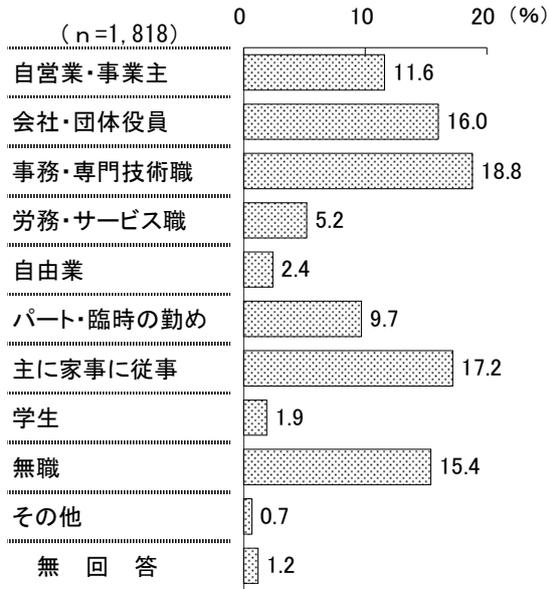


(参考) 住民基本台帳における年代の割合

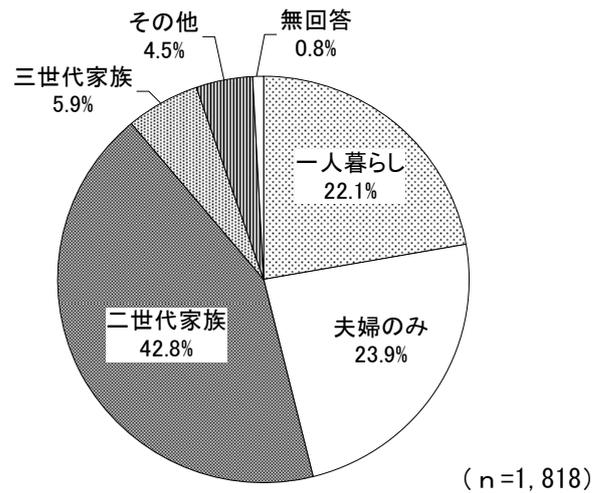
平成 21 年 6 月 1 日現在



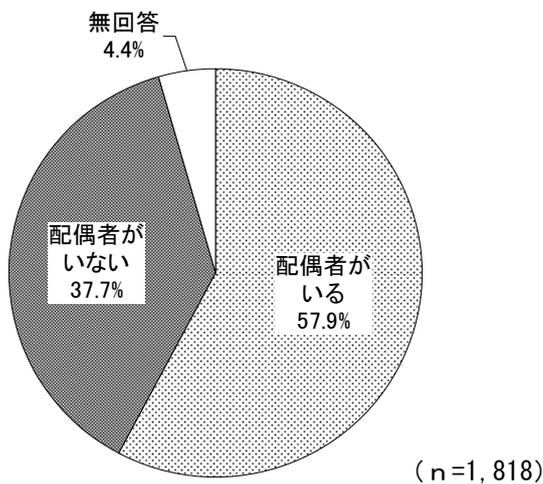
(4) 職業



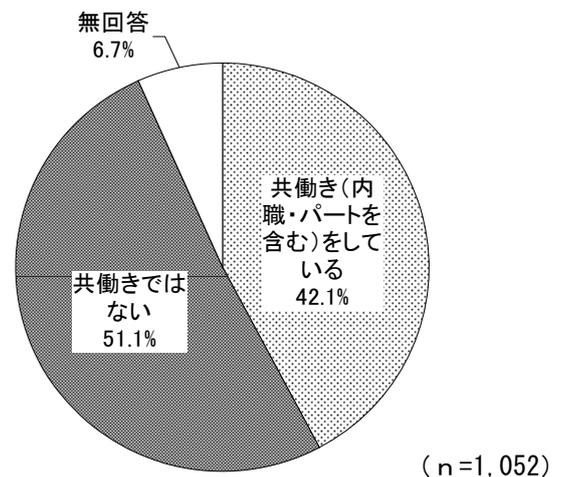
(5) 世帯構成



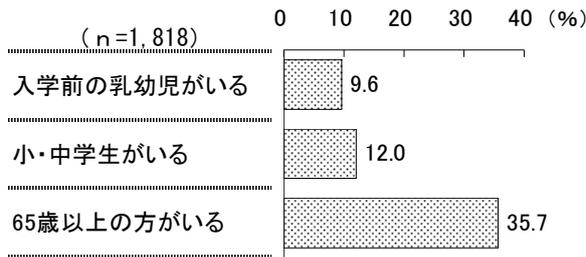
(6) 配偶者



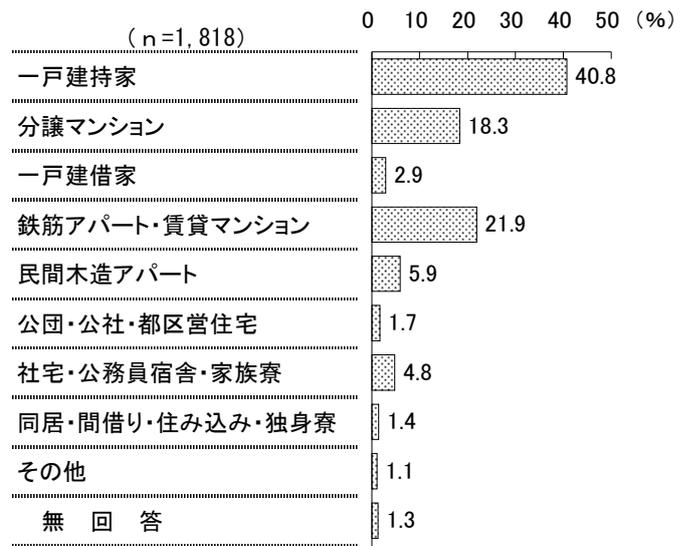
(7) 共働き



(8) 家族構成



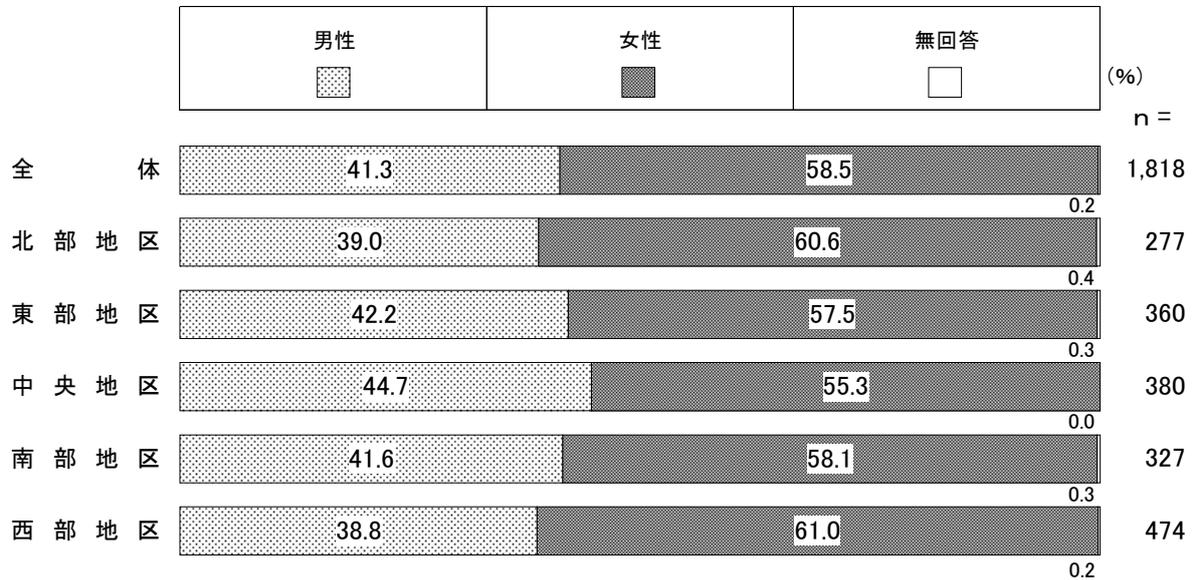
(9) 居住形態



(10) 地区別の状況

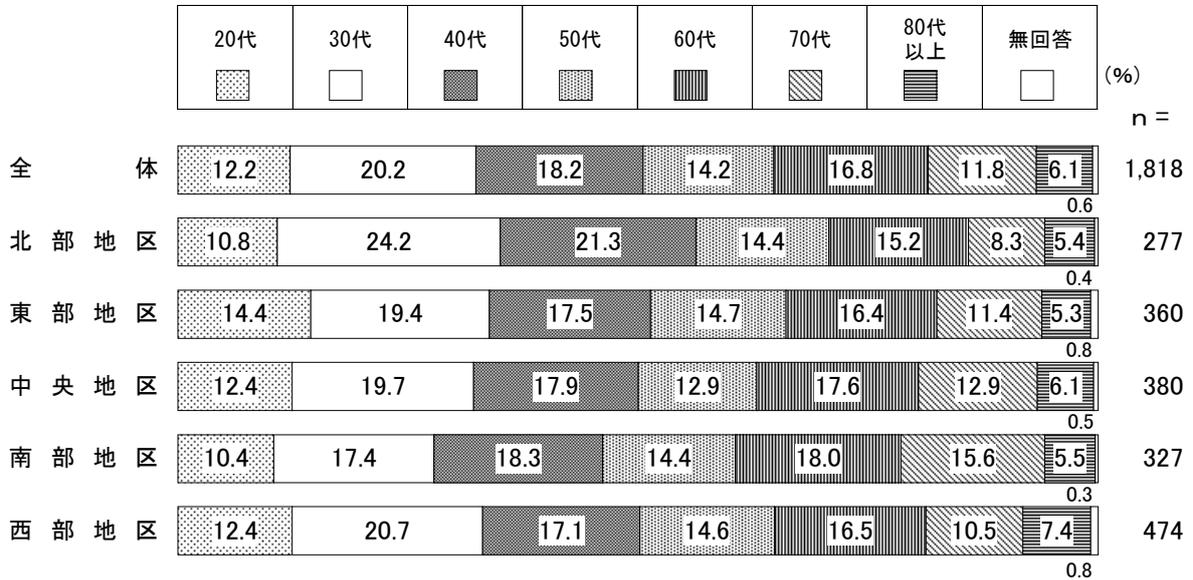
●地区別に見た男女構成

- 「男性」は東部地区、中央地区、南部地区で全体より高く4割を超えており、「女性」は北部地区、西部地区で全体より高く、ほぼ6割となっている。



●地区別に見た年代構成

- ・ 「30代」と「40代」で北部地区が高くなっているが、地区間で大きな傾向の差はみられない。



●地区別に見た居住形態

- ・ 「一戸建持家」は南部地区（48.3%）、西部地区（46.2%）、中央地区（45.8%）で全体（40.8%）より高くなっており、南部地区では5割近くを占めている。
- ・ 「分譲マンション」は東部地区（27.2%）、北部地区（23.8%）で全体（18.3%）に比べて高く、「社宅・公務員宿舎・家族寮」は北部地区（15.2%）で全体（4.8%）に比べて高くなっている。

